



あなたが考えたトイレにちなんだ回文(廁処回文)をお待ちしています。回文にペンネームを添えてメールでお送りください。あなたの回文がかわや版の紙面を飾るかも!! amenity@do-amenity.co.jp



無料お試しキャンペーン：2026年8月31日まで
 期間中お申し込みのお客様に限り、V-ZEROパウチおひとつ無料進呈!!
 担当者へお気軽におたずねください。

トイレ歳時記 7月
 2026年7月24日(金)は尿失禁の日
 尿失禁治療器を扱うBTL Japan株式会社が制定。「24=によ(2)しつ(4)」の語呂合わせに加え、金曜日の“金”を「禁」に置き換えて“尿失禁”と読ませると、ちょっとユニークな仕掛けが特徴です。同社の治療器のPRだけでなく、尿失禁について相談しやすい環境づくりや、恥ずかしさを減らすための意識改革も目的とされています。

編集後記
 今回の特集、「うんこ」か「うんち」か、でかなり悩みました。辞書的にはもともとが「うんこ」で、そこから派生した幼児語が「うんち」。うんこは語感が強くて面白さやインパクトがあり、うんちはやわらかく子ども向けです。そう思って特集を読み返してみると、商品名や施設名に使われている言葉の選び方にも、それぞれの意図が見えてきます。言葉ひとつで印象が変わる「うんこ/うんち問題」。その奥深さを感じました。(セルベッチオ中嶋)

あなたの町のアメニティネットワーク

コンナ イイトレ
 アメニティ本部フリーダイヤル ☎0120-57-1110

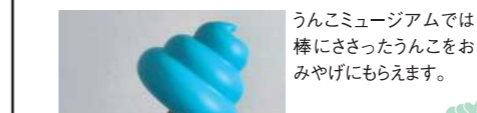


特集 うんこはなぜポップになったのか

ミュージアムや教材、グッズやお菓子……
 かつてはタブーだったはずのうんこが、近年『かわいい』『楽しい』の象徴として広まっています。
 その現象について、かわや版ならではの視点で取材しました。

うんこがかわいに変わる

現在のうんこカルチャーを語るうえで、まず外せない存在がうんこミュージアムです。
 東京、名古屋、横浜などで展開され、SNSでは「映えスポット」として常に話題になっています。2019年のオープン以来、若者や親子連れに人気を博し、累計来場者数は250万人を超えます。かわや版編集室でも実際に訪れてみたところ、館内では、来場者が「うんこ!」と連呼し、カラフルでポップな「うんこ」と戯れるという、これまでにない体験の世界が広がり、うんこが恥ずかしいものではなく開放感を感じました。うんこミュージアムは、うんこを“かわいい”“楽しい”へと変換し、タブーをポップに塗り替える、まさに、現代のうんこカルチャーの震源地と言えるでしょう。



うんこミュージアムでは棒にささったうんこをおみやげにもらえます。
 「UNCOSHOP」を運営する株式会社うんこが所有するうんこカー

うんこ好きが作ったカルチャー発信地

もうひとつのうんこカルチャーの中心地が、横浜にあるうんこ専門店「UNCO SHOP」です。店内には、オリジナルのTシャツや靴、雑貨やお菓子など、約2,000種類ものうんこグッズが並び、訪れた人を圧倒します。2020年7月のオープン以来、SNSや口コミで話題となり、海外からもファンが訪れる人気店になりました。オーナーは幼い頃からの筋金入りのうんこ好き。外国人モデルを起用し、ニューヨークロケの本気のプロモーションビデオを制作したり、オリジナルキャラクター「うんこたん」が登場するシュールなYouTubeアニメを展開したりと、「うんこで世界を笑顔にする」という姿勢が徹底されています。訪れた人が「楽しかった!」と言って帰っていくこの場所は、人がうんこを楽しんでいる根源的なものを感じさせてくれました。



うんこで世界を笑顔にするUNCOSHOPの店内

タブーを学びに変えた大ヒット

この流れを決定づけたのが、2017年に登場した「うんこドリル」です。著者の古屋雄作さんの「子どもにとってうんこは Teppanbuneta」という気づきと、「単調な漢字の書き取りをもっと楽しく」という教育上の課題の二つが結びつき、前代未聞の「うんこ×学習」というコンセプトが誕生しました。制作では、いじめや不快感につながりかねない表現を徹底的に排除し、うんこを“きれいなもの”として扱う独自の世界観を構築。その結果、シリーズは300種類以上に広がり、累計発行部数1,300万部を超える異例の大ヒットとなりました。うんこが教育の世界にも進出したことで「うんこってこんなに堂々と言ってもいいんだ」という空気も生まれ、タブー視が薄れていききっかけにもなりました。



うんこが“記号”になるまで

もともと排泄物であるうんこが、いまや人気のアイコンとして親しまれている背景には、うんこを象徴的に記号化した「まきぐそ」の存在があります。大便を渦巻き型に描いた表現は、平安時代の餓鬼草紙までさかのぼることができますが、現在私たちが目にするキャラクター的な「まきぐそ」は、1960年代の漫画文化の中で形づくられました。その原型は、1969年連載スタートのとりいかずよし氏の漫画『トイレ博士』が初出だと言われています。さらに1980年代の



うんこくんシリーズのお菓子。うんちグミは1997年の発売以来、変わらぬ人気で、累計4億個以上を売り上げるロングセラー。

家庭で楽しめる“うんこ型ホットケーキメーカー”。SNSでも話題のうんち焼き。

鳥山明氏原作のアニメ『Dr.スランプ アラレちゃん』で全国的に浸透し、うんこは“汚いもの”から笑いを生むキャラクターへと変わっていきました。

1990年代には携帯電話の絵文字に採用、2010年にはUnicodeに登録され、世界中で使われる💩(poop emoji)へ。こうして「まきぐそ」は、実際の排泄物とは切り離され独立したアイコンとして進化していきました。



うんこは世界共通だ!

お隣・韓国には、なんとうんこをモチーフにした斬新なカフェがあります。その名も「馬糞ドーナツカフェ」。外国人観光客でにぎわう仁寺洞の文化複合施設・サムジギルの最上階にあります。オーナーのオ・ジュンヨンさんは「言葉が通じなくともうんこは世界共通だ!」と語ってくれました。店内は明るくポップで、“汚いもの”をポジティブでシュールな観光スポットに変えてしまうエネルギーにあふれています。韓国ではうんこは金運を呼ぶ縁起物とされており、うんこが広く受け入れられている背景には、こうした文化的な土壌も関係していそうです。

取材・文・写真: 渡部絵里奈



大人のうんこ観の変化

「子どもはうんこが好き」というのは大前提として、その理由について、排泄に関する絵本を多く手がけ、子どもの文化や発達に詳しい村上八千世さんは、精神分析学者のフロイトは「子どもの排泄物は愛する人への最初の贈り物」と例えており、排泄することで親から褒められた経験などが関係するのではないかと説明します。またうんこと言うと簡単に大人が反応してくれるため子どもにとっては便利なコミュニケーションツールなのかもしれないとのこと。

一方で、かつて子どもだった大人のうんこ観が変わってきた背景には、水洗化とトイレの清潔化があるのではないかと、トイレ文化研究家の森田英樹さんは話します。水洗トイレの普及で他人の排泄物を見る機会が減り、うんこへの嫌悪感が薄れた。さらに現代のトイレは清潔で快適になり、うんこを“汚いもの”として避ける機会が少なくなっていったというのです。

まとめ

うんこは長いあいだ“恥ずかしいもの”とされてきましたが、子どもの素直な感覚や記号としての発達、そしてトイレ環境の変化が重なり、いまでは笑いや興味を共有できる存在へと変わりつつあります。うんこには人を笑顔にし、楽しくさせる、国境も世代も超えるパワーがあります。その力こそが、現代のうんこカルチャーを形作っているのではないのでしょうか。

Toilet Topics

「げんきリアルMOOKシリーズ」に“トイレ”が仲間入り! 「リアルサウンド洗浄トイレ」発売!

子どもにとって、排泄は“いちばん最初の学び”とも言われます。身体の仕組みを知ること、生活のリズムをつくること、そして「できた」という自信を積み重ねること。そんな日々の成長の入口にある“トイレ”が、ついに講談社の人気ムック「げんきリアルMOOKシリーズ」に仲間入りしました。

「げんきリアルMOOKシリーズ」はこれまでに、踏切、レジスター、AED など、子どもたちが「どうなってるの?」と気になる仕組みを、音とギミックでリアルに体験できる付録つきムックとして展開してきました。SNSでも「本物そっくりで子どもが大喜び!」「付録とは思えないクオリティ」と話題になっています。そんな人気シリーズに、ついに「トイレ」が登場です。



音も動きも“ホンモノそっくり”

「リアルサウンド洗浄トイレ」付録の洋式便器では、洗浄音・乾燥音・おしり洗浄音・流水音の4種類のサウンドを再現。細部まで“本物のトイレ”を感じるつくりになっています。さらに、紙工作で組み立てる“個室”も付属。ドアの開閉、鍵の細工、壁のプリントまで作り込まれていて、どこから見ても本物そっくりのトイレ空間が広がります。

遊びながら学べる“トイレの教科書”

誌面には、トイレにまつわる知識がたっぷり。トイレの各パーツの名称・仕組みがわかる「トイレのひみつ」、生活用水がどこへ行くのかを学べる「ながれるみずマップ」など、図鑑のような多彩なビジュアルで、楽しみながらトイレについて学ぶことができます。また、小さなお子様のいるご家庭では、トイレトレーニングは頭を悩ませるところ。そんな親御さんのための読み物や、シールつきの「トイレカレンダー」もあり、親子のトイレトレーニングにも役立つ内容になっています。



げんきリアルMOOK ホンモノそっくり! 開く! リアルサウンド洗浄トイレ 講談社(編) 発売日2026/04/23 価格:本体1800円(税別)



組み立てたトイレにぬいぐるみなどを座らせて遊んでも楽しい。トイレトイパーや鍵など、細かなギミックは大人も満足のクオリティです。(ぬいぐるみは付属しません)

かわや版編集部より

トイレは生活の基本であり、子どものころから関心を持ってもらえることは、排泄教育の観点からとても良いことだと考えています。このムックは、「楽しい」「遊べる」だけでなく、トイレの仕組み・マナーまで自然と学べる内容。親子で一緒に楽しみながら、トイレへの理解が深まる一冊です。